

産地戦略

実施主体 愛知県
都道府県 愛知県
対象地域 全域
対象品目 切り花バラ

実施期間 令和4～5年度



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類 該当するものに●を付してください。

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

愛知県はバラの主産地県であるが、バラは植物体全体が商品であるため防除圧は野菜に比べ大きく、化学農薬による環境負荷が高い品目であると共に、農薬による防除作業が生産者の大きな負担になっている。特にうどんこ病はバラの最重要病害であり、耐性菌の出現により防除が難しくなっていることや環境負荷軽減の観点からも化学農薬に依存しない防除手段が求められている。

本県バラ産地に、植物の防御関連遺伝子の発現を誘導する紫外光（UV-B）ランプが導入が進むことにより、耕種的にうどんこ病の発生が抑制されて、化学農薬の使用量が低減されることを目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	定植		摘心・枝折り曲げ				採花						
技術名	定期的な化学農薬の散布				定期的な化学農薬の散布								

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	定植		摘心・枝折り曲げ				採花						
技術名	うどんこ病発生時に化学農薬を散布				紫外線(UVB)の照射								
	うどんこ病発生時に化学農薬を散布				うどんこ病発生時に化学農薬を散布								

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	46.6	▶ 46.6	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	0.8	▶ 3	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	/		
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	0.8	▶ 3	

取り入れる技術に応じて取組面積の目標等が異なる場合は、行を追加する等で分かるように記載してください。

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	▶ 紫外線（UVB）照射と化学農薬を組み合わせた防除	化学農薬の使用回数の削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回）	30	▶ 21	現状は検証農家の作業日誌より算出
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

県内JA及び愛知県花き温室園芸組合連合会ばら部会とともに開催する勉強会や栽培指導を通じて、産地に紫外線（UVB）照射技術に関する技術情報を提供して、技術の普及と定着を目指す。情報提供や技術指導にあたっては、本事業で作成した栽培マニュアルを活用する。

関係者の役割

関係者名	愛知県	県内JA	愛知県花き温室園芸組合連合会ばら部会
役割	紫外線（UVB）照射技術の導入推進 栽培指導	栽培指導、勉強会の開催	紫外線（UVB）照射技術を活用した防除 の実践と栽培技術向上